シーズ名	超音波技術を用いた抗ウイルス治療後肝発がん予測法の開発
氏名･所属･役職	打田　佐和子・医学研究科　肝胆膵病態内科学・講師

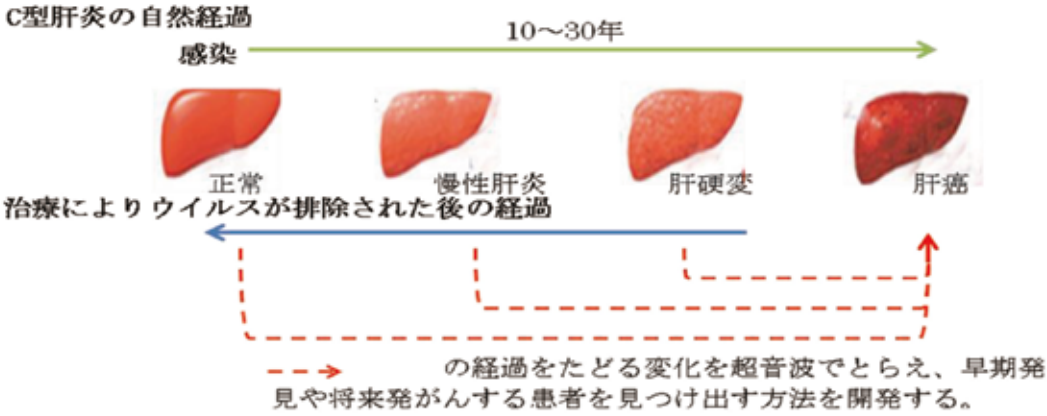
＜概要＞

【背景】

C 型肝炎に対するインターフェロン治療によってウイルスの排除に成功した症例では、肝硬変進展や肝発癌が抑制されることが明らかになってきた。また、近年、インターフェロンを用いず、内服薬のみでウイルス排除が可能な治療法が開発され、肝癌予防の観点からも期待がもたれている。その一方で、ウイルスが排除された症例においても経過観察中に肝癌を発症することが報告されている。しかしながら、その原因およびどのような症例で発癌が起こりやすいのかなどについてはわかっておらず、現時点では治療後も全症例を長期に経過観察する必要がある。

【目的】

超音波を用いて、肝発癌に結びつく背景肝組織の変化を明らかにし、それら変化を非侵襲的に、定量的かつリアルタイムに診断・測定するツールを開発することを目的とする。さらに、そのツールを実用化することで、肝癌の早期発見のみならず発癌を来す症例の予測が可能となり、癌診療への新たなアプローチに貢献できると考えられる。



＜アピールポイント＞

患者さんに対して侵襲の少ない超音波を用いて、発癌の予測や早期発見に利用できる検査法を開発することを目標としている。

＜利用・用途・応用分野＞

慢性肝疾患における肝発癌のメカニズムが解明できれば、今後の肝癌治療および予防法の開発に繋がることが期待される。また、超音波の診断能を評価・向上させることができれば、患者さんは侵襲の大きい検査を受けなくても済むようになることが期待される。加えて、他臓器にも応用できる診断法が確立できれば、将来的には肝癌だけでなく、他臓器の癌治療および予防にも繋がることが期待できる。

＜関連する知的財産権・引用文献・学会発表など＞

Kobayashi S, et al. Development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C who had a sustained virological response to interferon therapy: a multicenter, retrospective cohort study of 1124 patients. Liver International 2007;27:186-91.

＜関連するＵＲＬ＞

http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/

＜他分野に求めるニーズ＞

なし

キーワード	超音波検査、肝癌、発がん予測